

～チャレンジ事業審査委員会委員からの講評コメント～

団体名：南房総三芳・村のしろうと百姓塾

■コロナ禍にあって（逆にこのような状況だからこそ）予定回数を上回る活動実績を達成されたことは立派です。わずか8家族を対象とした取り組みではありますが、「家族」という単位に着目して、農村と都市の家族ぐるみの交流を行ってそれを継続していることは素晴らしいことです。今後、ここで得られたノウハウは他地域のモデルにもなると思います。

■コンニャクづくりや手作り味噌づくりマグロの赤飯づくりなど個性的な企画が多く、様々に工夫されて取り組まれていることを評価いたします。その特徴をもっとクローズアップしてPRに磨きをかければ、更に注目を集め、参加者が増えると思われます。加えて、周辺の見どころをもっと深掘され、集客なども工夫していただくと更に活動に磨きがかかると思います。

■三年目の活動として参加～参与、参画を期待しておりました。チャレンジ事業としては最後の年ですが、参加者とともに展開していくことの楽しさを見つけていって頂くことを願っています。

■コロナ禍においても、予定した事業が殆ど実施できたようで良かったです。チャレンジ事業も最終年となってしまいましたが、来年も継続実施で参加家族が募集され、既に予定した定員数が確保できたそうで安心しました。今後も、みよし交流館の利用をいただければありがたいです。事業が長く続くことを期待しております。ありがとうございました。